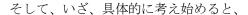
【事例1】40才でマイホームを購入したA氏。(奥さん:パート、子供:2人)

生まれ故郷に、30才でUターンしたA氏。

実家からの通勤が不便な為、賃貸アパート (7万円) に入居。 数年後、マイホーム購入を考え始めました。

まずは、間取りについての"夢・希望"と言えば、

- ・家族がいつも集まり、話がしやすいように、広い居間が欲しい。
- ・子供たちと料理がしやすいように、台所はL字型にしたい・・・etc。



- ・今の年齢と年収で、無理なく購入できる物件価格(土地・建物)はいくらなのか?
- ・住宅ローンを組んで、ちゃんと返せるのか? 頭金にあてる貯金はあまりない。
- ・子供たちが県内の国立大学に入ってくれれば良いが、もし、県外の私立大学となれば、 教育費・生活費等で、いったいいくらかかるのか?
- ・固定資産税がかかるのでやめておいた方がいいと言われたが、いくらかかるのか・・・etc。

わからないことだらけで、判断できず、なかなか決断できません。 仕事から帰ると、奥さんから、「ねえ、どうするの?」と問われる日々。 困った!なにを根拠に考えればいいのか? わからないことだらけ・・・。 「今夜はもう遅い。明日も早いので、またにしよう。」 こんな毎日の繰り返し・・・。あっという間に10年が過ぎ去っていきました。 そして、そんなある日、A氏にこんな出来事がありました。以下は、A氏本人からです。

> 当時はアパート暮らしで狭いため、子供部屋はひとつでした。 ある日、仕事が遅くなり深夜に帰宅すると、高校受験を控えた長女が アパートの狭い台所で、勉強をしていました。 「部屋が明るいと妹が寝づらいだろう」との思いで、そうしていたのでしょう。

私は一人涙しました。"長女の優しさ"と"私の不甲斐なさ"に。 なかなかマイホーム購入を決断できなかったのです。

そして、このことがきっかけとなり、ついに、<u>「えいやー!」の思いで、決断をしました。</u> でも、「もっと早くに決断できていれば、・・・」と悔やんでいます。

なぜ、決断が遅れたのか。それは、"判断材料"が揃わなかったからです。

判断材料が整えば、もっと早くに決断ができ、返済計画もスムーズにいったのです。